



主キリストの栄光を映し出す“手紙”

Ⅱコリント 3:16-18（要旨）

説教者 原田憲夫

5月に入り、使徒パウロが現代の私たち—キリスト教会もまた「永遠のいのちが書き記されたキリストの手紙」（3:3）として「信・望・愛」を人々に届けているか、との問いかけに耳を傾けています。

今日の主題は「主キリストの栄光を映し出す“手紙”」です。

（注）「栄光」：一般には「輝かしい誉れ」「光栄」などと私たち人間の栄光について用いる。

ところが聖書は、「輝かしさ」だけではなく、「重々しきさ」、「威厳」「威光」「権威」「完全性」などを加えた意味をもって、特に「神の栄光」を指し指す言葉として使っている。

今日ここでしっかり覚えておきたいのは、「神の栄光」を指すこの言葉が、神様に背を向けている私たち人間の救いの事実に関連して用いられている点です。それはキリストを信じる者たちに約束されている「救い」の完成、聖化の到達時に現れる輝き、神様の賜る恵みの終着点だということなのです。

今日、特に3章18節を通して“キリストの手紙”として真の姿を心に刻みたいと願います。

そのための「鍵」は、この地上を歩まれた主イエス・キリストご自身の姿をしっかり捉えることにあります。

【1】主ご自身の姿を繰り返し心に思い巡らし、焼き付ける

教会生活のある年月送っていると、信仰先輩たちを見て育ちます。教会の様子が分かり、奉仕をしている自分に満足していきます。そこに社会経験や学識が加わると、信者として「それなりに」成長しているように思えてきます。ですから「茨」が生えてきて信仰の成長を妨げている気づかず、軽いスランプだとやり過ごすことが往々にして起こります。

「それなりに」は曲者です。

聖書が私たちに問うているのは、「あなたの内にキリストが形造られていますか」（ガラテヤ 4:19, Ⅱコリント 3:18）、だからです。e.g. ある幼児教育の本が教えること；

▷信仰者が主キリストを知る道は、まず一人ひとりが聖書から主がどのようなお方かを繰り返し学ぶことなのです。

まずは聖霊の助けによって祈り、「みことば」に耳を傾け、繰り返し主の姿を心に思い巡らすことです。主キリストの姿をしっかりと心に焼き付けることです。

【2】「主と同じかたちに姿を変えられる」

子供の頃聞いた昔話に、うまく人間に化けてもしっぽが消せないきつねやタヌキのお話がありました。同じように、私たちはうまく表面を繕っても衣の下には鎧ならぬ、ねたみや憎しみがはみ出ているものです。何かの拍子にアンタとは口もききたくない、と本性が現れます。

しかし、「主と同じかたちに姿を変えられる」ということはそうではありません。

使徒パウロは、このことを「鏡のように主の栄光を映しつつ」と語ります。

言い換えれば、「“私”というものが消えて栄光の主キリストの姿が映される」というのです！

ところが「映す」ためには、鏡がきれいに磨かれていなければなりません。

古の一人の師父の言葉が現代の私たちに語りかけます。「波立つ水には顔は映せぬ。魂だつて同じこと。余計な思いを消し去らなければ心清らに神には祈れぬ。」（『砂漠の知恵』p4）

▶主キリストの十字架と復活をつねに仰ぐことです。十字架と復活だけが“私”の心の鏡を磨くことができるからです！

→ガラテヤ 2:20 「もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。・・・」

【3】栄光から栄光へ

主の十字架によって「覆いを取り除かれた顔に」「鏡のように主の栄光を映しつつ、栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられていく」（Ⅱコリント 3:18）、これこそ今日の私たちが追い求めるべき「キリストの手紙」としての真の姿です！

●Ⅰコリント 6:20 「あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。ですから、自分のからだをもって神の栄光を現しなさい。」

▷兄弟姉妹、暗闇がおおう今の時代にあって、あなたは、主イエス・キリストの栄光を映し出す“希望の手紙”なのです！